



大門小だより

4月号

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子

令和2年4月7日

横浜市立大門小学校



「当たり前」の大切さ

校長 能登 正明

令和二年度が始まりました。在校生の皆さん、進級おめでとうございます。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。四月から佐藤峰子校長先生の後任として着任しました能登正明と申します。微力ではございますが、子どもたちのために力を尽くしていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

この三月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために全国の学校が休業となりました。子どもたちにとっての毎日の学校生活は、楽しいこともたくさんありますが、楽しくないこともたくさんあります。友達と教室で楽しく過ごすだけでなく、時には喧嘩して悲しい思いをする日もあります。先生と学習や行事に楽しく取り組み充実感や達成感を得ることもありますが、時には怒られてしょんぼりする日もあります。そんな当たりの学校の日々が突然無くなってしまったのがこの三月の突然の休業でした。

私自身も、学校に子どもたちが毎日来ることが「当たり前」だと思っていました。しかし、三月の休業によって、突然子どもたちが学校に来なくなったことにショックを受けました。子どもたちが毎日学校に通うということが「当たり前」ではなく、いかに「有難い」ことであったのか。その当たりの毎日を十分に大切にしていたのか。そんなことを、この休業の間に考えました。

子どもたちにとっても、このひと月の休業は心身両面で大きな影響があったことと思います。学校が休みでストレスが溜まっていたり、生活リズムが乱れてしまっていたりする子もいるのではないのでしょうか。また、学校が休みになってホッとしている子もいるのかもしれませんが。子どもたちの思いもさまざまであると思います。新学期を迎えるにあたって、何よりも子どもたちの心身の健康やいろいろな思いに気を配りながらスタートして行きたいと思っております。

新型コロナウイルスについては今後も予断を許さない状況が続きます。保護者の皆さまや地域の皆さまには緊急の対応などでご迷惑をおかけすることが十分に予想されますが、今後ともご理解ご協力をお願いいたします。どうぞよろしく願いいたします。